

第 10 回 環境振動評価小委員会 議事録 (案)

A. 日 時 2011 年 4 月 12 日 火曜日 18:30~20:30

B. 場 所 建築会館 会議室

C. 出席者 益田主査、他 8 名

D. 提出資料 (提出委員名敬称略)

- No. 10-0 第 9 回環境振動評価小委員会議事録 (案)
- No. 10-1 委員名簿
- No. 10-2 「広域実測」平成 22 年度の活動について
- No. 10-3 データベース WT の活動方針 (案)
- No. 10-4 「説明性 WT」報告用資料
- No. 10-5 2011 年度環境振動評価小委員会 年度方針案
- No. 10-6 地震時の建物応答例
- No. 10-7 地震時の実測例

E. 議事内容

1. 議事録確認 (資料 10-0)

- ◇ 承認された

2. 議論

- 1) 資料 No. 10-2 「広域実測」平成 22 年度の活動について益田主査より代理で説明
 - ◇ 平成 22 年度は 3 回の WT 会合を行った
 - ◇ 第 1 回: ワーキングチームの活動目標、活動方法の検討を行った
 - ◇ 第 2 回: 現状行われている広域振動調査・解析技術等に関する資料の集積に努め、今後は目標設定の確認を行うこととする
 - ◇ 第 3 回: ネットワークカメラ、環境 GIS の採用方法の検討を行った
 - ◇ 広域実測に関わる技術のみならず、環境振動の評価に視点をおいた検討の必要性も認識した
 - これらの技術は大規模災害時にも有用であると思われる
- 2) 資料 No. 10-3 データベース WT の活動方針 (案) について説明
 - ◇ 既往論文を調査し、「加振源」「実測等」に関する情報を収集する
 - ◇ 「加振源」の情報収集は交通振動分野に重点を置く、「実測等」に関しては事例収集のみならずシミュレーション事例の集積にも努める
 - 交通振動の加振源を標準化することは可能か? 時系列波形で定義できるのか?
 - 実測データの集積のみでも (標準化を行わなくても) 十分な価値は見いだせる
 - ◇ 委員内で有する事例 (地盤・路面・車両側の各データ) より加振力の推定が可能
 - ◇ 他の小委員会・WG とも資料の共有を目指し、情報の集積に努める
 - ◇ 進展 (進捗状況) により、新規の WG の申請を行うことも検討する
- 3) 資料 No. 10-4 「説明性 WT」報告用資料について益田主査より代理で説明

- ◇ ハンドブック刊行後の実態調査を行っている
- ◇ 併せて潜在的な問題（長周期地震動・台風時の居住性能評価等）の洗い出しも行う予定
- ◇ 指針のあり方の検討
 - ユーザー（建築主）を対象とした説明性のあり方についてまとめる
- ◇ 振動の大きさについて「イラスト」「言葉」等を用いて視覚的に訴えかける方法の検討を行う
- ◇ 加振源の種類・性能評価・建物内の様子を1つの図にまとめ、環境振動の説明を行う例を提示
 - 具体的な評価値を示すのみならず、説明手法の提案を行うことも有用では

4) 資料 No. 10-5 2011 年度環境振動評価小委員会年度方針案について益田主査より説明

- ◇ 今年度も「説明性」「広域実測」「データベース」「評価」の4つのワーキングチームを中心に活動
- ◇ 各 WT で得られた研究課題を取りまとめ、シンポジウム・刊行物等への足がかりとする
- ◇ 進捗状況によっては、WT 数・人員の増減も検討する

5) 資料 No. 10-6 地震時の建物応答例について説明

- ◇ 地震時の建物応答について事例紹介

6) 資料 No. 10-7 地震時の実測例について益田主査より説明

- ◇ 地震時の実測例を紹介

3. 次回以降の課題

- ◇ 4つのWTにて活動を行い、その結果を小委員会にて報告を行うこと

4. 次回開催予定

- ◇ 2011年7月5日（火）、17:30～ 本会会議室にて

5. 他（連絡事項等）

- ◇ 以降小委員会内で配布された資料を学会のデータベースサーバーへアップロードする
- ◇ 委員名簿を訂正の後、各委員へ配布する